

2016年度 中央大学共同研究費 ー研究報告書ー

研究代表者	所属機関	商学部		2016年度助成額
	氏名	原田 喜美枝		1,180 (千円)
	NAME	Kimie Harada		
研究 課題名	和 文	わが国ワイン産業の社会科学的分析		研究 期間
	英 文	Social Scientific Analysis on the Japanese Wine Industry		
2015年度 ～2016年度				

1. 研究組織

	研究代表者及び研究分担者		役割分担	備考
	氏名	所属機関/部局/職		
1	原田 喜美枝	中央大学・商学部・教授	インタビュー、アンケート等の計量分析、多変量解析	研究代表者
2	久保田 敬一	中央大学・大学院戦略経営研究科・教授	ファミリービジネスの後継者選択問題、環境保全とサステナビリティの研究	研究分担者
3	宮崎 伸一	中央大学・法学部・教授	臨床精神医学、障害者スポーツ、醸造学	研究分担者
4	蛸原 健介	明治学院大学・法学部・教授	ワイン関連法制と市場、ワイン品質に関する研究	学外研究分担者
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
合計 4 名				

2. 2016年度の研究活動報告

(和文)

本研究の研究計画は、ワイン産業における家族経営（以下、ファミリービジネスと呼ぶ）に関するフィールドスタディとそこでのアンケート、結果を解析してとりまとめて分析し、論文を執筆することであった。査読付き英文専門誌に投稿することが最終目的であった。

2年目にあたる2016年度は、2015年度中に終わることができなかった研究活動から実施した。まず、2015年度に行ったワイナリーへのアンケート調査結果を集計し、分析に利用できるように整えた。ファミリービジネスのワイナリーに対してアンケートを実施した結果明らかになった事実を確認すべく、ファミリービジネスとしての歴史が長い沖縄県の泡盛酒造所にも類似のアンケート調査を行った。泡盛酒造所は歴史が戦前から長いのだが、近年は販売が減少している業界である。それに比べると、販売が順調に伸びているワイナリー業界は経営に対する考え方なども大きく違った。非上場ファミリービジネス業に属する2つの酒類業について比較検討する論文を執筆している（原田、宮崎、蛭原、久保田*）。論文は2017年9月締切の雑誌に掲載予定である（アンケート調査結果をもとに現在、論文執筆中であり、概略は別紙にて紹介している）。このアンケート調査に先立ち準備が必要であったが、久保田の貢献が大きかった。ファミリービジネスの分野では業績も多く、過去に上場企業のファミリービジネスに対してアンケート調査をおこなった経験があることから、具体的実施方法について指示があった。また、ファミリービジネスの先行研究・関連研究についても大きな貢献があった。

宮崎と原田は、2015年度に行った被験者ツアーでの唾液アミラーゼの計測値をもとに分析をおこない、雑誌に論文を掲載した。研究代表者原田は、2016年10月の国際学会にて研究成果の一部を報告した。本邦初となる英語で日本のワイン産地を紹介する書籍がまもなく出版される予定である（4名による共著書籍、イカロス出版、2017年8月頃出版予定、原田が共著者の一人）。また、研究実施計画に基づき、原田、宮崎、蛭原は、設立から年数が経過していないアンケート対象ではないファミリービジネスのワイナリーへヒアリングに行き（手分けし実施）、アンケート結果との比較をおこなう分析をしている（ファミリービジネスのアンケート結果を考察する論文の執筆を優先しているため、この論文は今後執筆する）。蛭原はOIV（国際ブドウ・ブドウ酒機構）の理事会に参加し、日本のワイナリー・ワイン法の現状を説明し、各国のワイナリーの現状についてヒアリングを行い、イタリアのファミリービジネスワイナリーを視察した。これら内外のワイナリーでのヒアリング結果は、今後事例研究としてまとめる予定である（時期は未定）。また、原田が国際学会で知り合ったワイン経済学者と意見交換し、アジア地域におけるワイン生産量の統計不備について意見が一致し、現在論文を執筆している。この論文はワーキングペーパー後、英文査読雑誌に投稿予定である（タイトル：How much wine is really produced and consumed in China and Japan? 著者：Kym Anderson, University of Adelaide and Australian National University and Kimie Harada Chuo University and Australian National University）。

以上のことから、概ね研究計画に則って研究を実施できたが、全般的に遅れ気味である点は否めない。また、別紙で紹介するように、共同研究者の体調不良による不在という要因も重なり、一部研究計画が変更された点も反省材料としてあげられる。

(英文) We carried out a questionnaire survey to family business wineries in Japan and Awamori breweries in Okinawa, as our project is research on social scientific analysis on the Japanese Wine Industry. We brought out differences in management between two liquor industries. We also conducted hearing survey to young family-owned wineries and going to write two papers (one paper is already scheduled in September this year).
Two papers that are based on the research conducted in the first year of our two-year term have published. A presentation has done at an international conference.

3. おもな発表論文等 (予定を含む)

【学術論文】(著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)

蛭原健介 (2016) 「新しいラベル表示基準と「日本ワイン」の課題 —国税庁告示「果実酒等の製法品質表示基準を定める件」をめぐって—」『法学研究』101号 (査読無、2016年10月)

宮崎伸一・原田喜美枝 (2016) 「ワイナリーツアーの心理的効果」『白門』12月号 (査読無、2016年12月)

原田喜美枝 (2017) 「社会科学分野でのワイン・ワイナリーの研究」『学際』第三号 (査読無、2017年4月)

原田喜美枝・久保田敬一・宮崎伸一・蛭原健介 (2017) 「酒類業におけるファミリービジネス — アンケートに基づく考察 —」『企業研究』(査読無、2017年9月までに提出予定)

【学会発表】(発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)

Kimie Harada, “Japan Wine” and Wine Region in Hokkaido, The 15th International Conference of the Japan Economic Policy Association, Onuma International Seminar House in Hakodate Hokkaido, 29-30 October 2016

【図 書】(著者名、出版社名、書名、刊行年)

高橋悌二・原田喜美枝・小林和彦・斎藤浩『日本のワイン The Wines of Japan A Comprehensive guide to Wines and Wineries of Japan』イカロス出版 (2017年6月出版予定。この書籍は和英対訳の日英併記の書籍。日本では通常書籍として発売されるが、日本以外の国では英語版のみが電子書籍として発売される予定)。

【その他】(知的財産権、ニュースリリース等)

該当なし。